

令和7年度

奈良県高校生議会



奈良県議会・奈良県・奈良県教育委員会

はじめに

奈良県議会では、次代を担う高校生に県政や県議会の理解と関心を高めてもらうことを目的に、「奈良県高校生議会」を開催しています。

13回目となる今回は、県内8校から30名の高校生議員が参加し、住みよく魅力ある奈良県づくりについて、知事や県議会議員と意見交換をしました。

若者の政治離れが懸念されている今日、政治に興味を持ち、「知事や部局長に質問や提言をしたい」という高校生がたくさんおられることを大変うれしく思いますとともに、次代を担う高校生が政治への参加意識を更に向上させるという観点から大変意義深いことであると思います。

当日は、実際の県議会さながらに、議会運営委員会を開催し、本会議場では、高校生議員が自ら議長を務めるとともに、知事や部局長に県の政策について若者の視点から質問を行い、また、魅力ある奈良県づくりに向けた提言も行いました。さらに、意見交換会では、県議会議員と若者の政治参加などについて、自由に意見を述べ合いました。

高校生からは、「奈良県についてもっと知りたいと思うようになった」、「とても貴重な経験となり、県政に興味が湧いた」、「県議会議員とたくさん意見交換ができ、大きな学びを得ることができた」等の感想が寄せられ、高校生の率直な意見や熱い思いが伝わる高校生議会となりました。

今般、その記録をまとめました。本書を通して、奈良県議会をより身近に感じていただき、今後の議会の活動にご理解を賜れば幸いに存じます。

最後に、高校生議会を開催するにあたり、お忙しい中ご尽力賜りました各学校の先生方をはじめ、関係各位に深く感謝を申し上げます。

令和8年1月

奈良県議会議長 田中 惟允

目 次

議 事 日 程	1
高校生議員名簿	2
質 問 項 目 一 覧	3
提 言 一 覧	4
議 会 の 概 要 説 明	5
議 会 運 営 委 員 会	5
本 会 議		
○議長挨拶	5
○知事挨拶	6
○高校生からの学校紹介・質問	7
○高校生からの提言と同採決	2 5
○知事所感	3 2
○副議長閉会挨拶	3 2
○県立香芝高等学校質問資料	3 4
○県立国際高等学校提言資料	3 5
意 見 交 換 会		
○第 1 委 員 会 室	4 1
○第 2 委 員 会 室	4 3
○第 3 委 員 会 室	4 5
参 考 資 料		
○議会運営委員会座席表	4 9
○本会議座席表	5 0
○奈良県議会議員出席者名簿	5 1
○募集要項	5 2
集 合 写 真	5 6

※一部敬称を省略して記載しています。

令和7年度 奈良県高校生議会日程（令和7年8月21日）

時	議事内容	会場
9:30	受付	議会棟2Fロビー
10:00	オリエンテーション 「県議会の概要について」説明	第Ⅰ委員会室
10:30	高校生による議会運営委員会	議会運営委員会室
10:50	議場リハーサル等	本会議場、各委員会室
12:00	昼休み	各委員会室
13:00	高校生議会 開会行事 ・議長、知事挨拶 ・高校生議員の紹介 ・理事者の紹介 ・県議会議員の紹介 ・高校生議長の選出	本会議場
13:15	知事等との意見交換 〈高校生からの学校紹介・質問〉 ・6校（理事者からの答弁）	
14:20	休憩（10分）	
14:30	再開 〈高校生からの学校紹介・質問〉 ・2校（理事者からの答弁）	
14:50	〈高校生からの提言〉 ・8校	
15:30	閉会行事 ・知事所感、副議長挨拶 ・記念撮影	
議場から委員会室へ移動		
15:45	議員との意見交換会 ・意見交換 ・記念撮影	各委員会室
16:30	終了	

令和7年度 奈良県高校生議員名簿

大和高田市立高田商業高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
1	川原 夢桜	かわはら みおん	2
2	森田 凛	もりた りん	2
3	村田 梨緒奈	むらた りおな	2
4	大嶋 里沙	おおしま りさ	2

県立郡山高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
21	遠藤 瑶奈	えんどう こな	2
22	井上 謙亮	いのうえ りょうすけ	2
23	富田 結仁	とみた ゆに	2
24	坂下 心菜	さかした ここな	2

県立香芝高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
5	吉田 詩葉	よしだ ことは	2
6	森 郁颯	もり いぶき	2
7	門明 さくら	かどあき さくら	3
8	計盛 莓花	かずもり いちか	3

奈良市立一条高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
25	林 瞳貴	はやし むつき	2
26	嵯峨 悠生	さが ゆうせい	3
27	西堀 泠香	にしほり さえか	2

県立国際高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
9	北山 陽介	きたやま ようすけ	2
10	大谷 優月	おおたに ゆづき	2
11	佐保野 いづみ	さほの いづみ	3
12	大倉 沙恵	おおくら さえ	3

奈良県立大学附属高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
28	山田 瑛太	やまだ えいた	1
29	谷川 愛英	たにがわ まなえ	2
30	山岸 結愛	やまぎし ゆあ	2
31	加藤 里彩	かとう りさ	2

県立高田高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
13	宮本 紫桜	みやもと しおう	2
14	吉川 怜歩	よしかわ れあ	2
15	猪口 栄子	いのぐち とうこ	2
16	内田 彰皓	うちだ あきひろ	2

育英西高等学校

議席	氏名	ふりがな	学年
17	平田 奈都子	ひらた なつこ	2
18	小林 凛	こばやし りん	2
19	藤田 あかり	ふじた あかり	2
20	豊田 彩音	とよだ あやね	2

※ 議席欄は本会議場の議席番号です

質問項目一覧

学校名	質問項目	質問者
大和高田市立高田商業高等学校	奈良県の県外就業率改善を目指して	森田 凜
県立香芝高等学校	学校教育環境について	森 郁颯
県立国際高等学校	SNSを利用した奈良県の若者向け観光PRについて	大谷 優月
県立高田高等学校	奈良県南部地域の観光政策について	吉川 怜歩
育英西高等学校	奈良県の道路インフラ整備について	小林 凜
奈良県立郡山高等学校	教育活動におけるAIの活用について	井上 謙亮
奈良市立一条高等学校	奈良県が目指す、世界平和へのアプローチについて	嵯峨 悠生
奈良県立大学附属高等学校	日帰り観光客9割の現実を活かす観光戦略を実施できているのか	谷川 愛英

提言一覧

番号	提言テーマ	趣旨弁明者
第1号	自転車の交通環境の改善について	大和高田市立高田商業高等学校 村田 梨緒奈
第2号	高等学校における学習環境の改善について	県立香芝高等学校 門明 さくら
第3号	災害時に障がい者が安心して避難所で暮らせるように	県立国際高等学校 佐保野 いずみ
第4号	泊まるを目標に滞在型観光へ	県立高田高等学校 猪口 栄子
第5号	移動型販売車の動員	育英西高等学校 藤田 あかり
第6号	高校生の休み方改革	県立郡山高等学校 富田 結仁
第7号	「静かな観光」を掲げて奈良県の新たな魅力を発信し、県全体の活性化を目指す	奈良市立一条高等学校 西堀 涼香
第8号	奈良県の観光収入の最大化に向けて	奈良県立大学附属高等学校 山岸 結愛

県議会の概要説明

オリエンテーションの中で、山本議会運営委員長から、議員定数と選挙区、会派、常任委員会、特別委員会及び議会運営委員会等の議会のしくみや、議会の議決権及び調査・検査権、県民の利益につながる意見書の提出、県民からの請願・陳情の審査等の議会の役割や仕事、並びに議員の活動等についての概要説明が行われました。



(於：第1委員会室)

議会運営委員会

本会議が公正円滑に運営できるよう、会派を代表する議員により本会議の議事日程等を話し合い、議員全員の合意形成を行うための議会運営委員会が、各学校を一つの会派とみなして、各学校を代表する高校生議員により開催されました。



(於：議会運営委員会室)

本会議

開会 午後1時01分

○岡本県議会事務局長

一同、ご起立願います。礼。
ご着席願います。

ただいまから奈良県高校生議会を開催いたします。

まず初めに、田中惟允奈良県議会議長からご挨拶を申し上げます。

議長挨拶

○田中県議会議長

皆さん、こんにちは。議長の田中でございます。
奈良県高校生議会の開催に当たり、県議会を代表して一言ご挨拶申し上げます。



平成24年に開始いたしました奈良県高校生議会は、今回、13回目を迎えました。開催に当たりましてご協力をいただきました各学校の先生や関係者の皆様に、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、この高校生議会は、次世代を担う高校生の皆さんのが、知事や教育長及び部局長並びに県議会議員と、住みよい魅力ある奈良県づくりについて意見を交換することにより、奈良県政や県議会への理解と关心を深めてもらうとともに、若者の感性や発想で質問や提言をしていただき、我々議

員も一緒に考え、学ぶために開催しているものでございます。

本日予定している質問項目を拝見しますと、災害対策や観光政策など、時宜を得た多様な内容となっており、若さと元気ある発言を期待するとともに、大いに楽しみにしております。若い方の政治離れが危惧されていますけれども、奈良県の政治に興味を持ち、この高校生議会に参加したいと申し込んでいただいた高校生が多くおられることに大変うれしく思っています。

最後に、本日の経験が皆様の将来に有意義なものになることをご祈念申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○岡本県議会事務局長

続きまして、山下真奈良県知事からご挨拶をいただきます。

知事挨拶

○山下知事

皆さん、こんにちは。奈良県高校生議会にご参加いただきましてありがとうございます。



奈良県の行政については、さんはあまり身近に感じることはないかもしれません。県立高校に通っている高校生の方は、学校を運営しているのが県ですから、多少は身近に感じてくださっているかもしれません。中学生、高校生、大学生、20代の若い人たちにとって、さんの住んでいる市町村の役所や役場、あるいは県庁のやっている行政について、身近に感じる機会はあまりない

というのが多分実情ではないかと思っています。

しかし、皆さんのが毎日通っている道路を造ったり、整備しているのは県や市町村ですし、あるいは、ごみを回収しているのは主に市町村、それから、水道も、県と市町村で一緒に担っています。あるいは、小・中学校の多くは市町村が運営しており、高校には県立高校があります。このように、インフラ整備や教育、あるいはごみや水道など、様々な分野で、実はさんの生活と密接に関わっているのです。例えば、今日は、私立高校に通っている高校生の方もおられますが、県内の私立高校の授業料は、昨年4月からほとんどの世帯で無償化されました。県立高校では、既にほとんどの世帯が無償でしたが、世帯年収が910万円以上のご家庭について幾らか支払ってもらっていたのが、国の施策によって今年の4月から無償化されました。また、現在、県立高校では、特別教室や体育館の空調設置、トイレを和式から洋式に替える工事も急ピッチで進めています。これらのための予算、あるいは、例えば、県立高校の部活動の部費についての予算もここで決まるのです。ですから、さんの高校生活とこの県議会とは非常に密接に結びついています。県議会は、奈良県政の最高意思決定機関ですから、例えば知事が出した予算案や条例案に対して、賛成、反対、それぞれの立場から議論がなされ、賛成が多ければ、その政策が実行されるし、反対が多ければ、それは実行されないということで、大事なことはここで全て決まるわけです。

ですから、そういう場で、行政や議会がどのように運営されるかを身近に感じられる機会を得られたということは、さんは非常に幸運だと思います。さんが積極的に参加を希望され、こういう貴重な機会に恵まれたわけなので、さんの積極性は非常にすばらしいですし、高校生の立場で、県の政治・行政の最高意思決定機関の運営を疑似体験できるという機会は、恐らくさんの高校生活の中でも非常に大きなよい思い出になるのではないかと思っています。

私の希望としては、ここに参加されたことをき

きっかけとして、ぜひ政治や行政への関心を深めていただいて、既に18歳の方もおられるかもしれません、選挙権を得たら必ず行使していただきたいと思います。それから、今回のことときっかけにもしも政治や行政に興味関心が深まれば、例えば市役所や県庁に就職する、あるいは、議員になるために選挙に出るなど、そういうことも皆さん的人生の選択肢の一つとして考えていただけたらと思います。

私は、今回で高校生議会に参加するのは3回目になりますが、学校の先生からの指導も受けていは、皆さんの非常に高いレベルの質問にいつも驚いています。ここでの質問がきっかけで、皆さんの提案が実現したということも過去にはあります。ですから、今回、皆さんから様々な質問や提言をいただくことを私どもも大変楽しみにしておりますので、今日一日、どうぞよろしくお願いします。本日はご参加くださり本当にありがとうございました。

○岡本県議会事務局長

次に、本日参加くださいました高校生議員の皆様をご紹介いたします。名前を呼ばれましたらご起立願います。

(個々の紹介は高校生議員名簿をご参照ください。)

続きまして、理事者の紹介をいたします。

改めまして、山下真奈良県知事でございます。

なお、山下知事と共にご出席いただいております理事者の皆様のご紹介につきましては、お手元の座席表をもって紹介に代えさせていただきます。

また、本日ご出席いただいている県議会議員の皆様につきましても、お手元の出席議員名簿をもって紹介に代えさせていただきます。

そして、本日の奈良県高校生議会の議長を、前半は、奈良市立一条高等学校、西堀冴香議員、後半は、県立郡山高等学校、坂下心菜議員、このお二人に務めていただきます。

それでは、西堀議長、議会の進行をよろしくお願いいたします。

開 議

知事等との意見交換

高校生からの学校紹介・質問

○西堀高校生議長

ただいまから奈良県高校生議会を開会します。それでは、学校紹介及び県政に対する質問を行います。



(奈良市立一条高等学校 西堀 冴香 議員)

順位に従い、大和高田市立高田商業高等学校、1番、川原夢桜議員、2番、森田凜議員に発言を許します。

○川原議員

1番、川原夢桜です。大和高田市立高田商業高等学校の紹介をします。



(大和高田市立高田商業高等学校 川原 夢桜 議員)

本校は、かつて紡績業でにぎわっていた大和高田市にある市立の商業高校です。専門高校ということもあり、生徒はいつでも面接が行える状態を意識して、ふだんの生活を送るように心がけています。「礼儀・清純・誠実」の校訓の下、いかなるときでも挨拶は元気よくをモットーにしています。

本校は、部活動にも力を入れており、多くの運動部、文化部ともに近畿大会や全国大会に出場し、特にソフトテニス部では全国優勝を果たしています。また、商業検定の取得率は常に全国上位を維持するなど、文武両道の生活を送っています。課外活動においては、地域をよりよくするために結成されたまち部。という団体があります。まち部では、地域を盛り上げるための商品開発を軸に活動しています。

本校は、部活動や学業だけではなく、様々な行事があり、その一つがすき焼きパーティーです。この行事は、先輩から後輩へすき焼きを振る舞うのですが、作る先輩によってそれぞれ味が違つております。それが魅力となっています。また、まち部がすき焼きパーティーを機にレトルトのすき焼きを開発し、販売しました。その他、球技大会や文化祭などの行事もあります。特に文化祭では、毎年全てのクラスがそれぞれの個性を生かしたお店を出し、ユーモアにあふれる舞台発表を行うなど、とても盛り上がります。このように、1年間を通して魅力的な行事が数多くあることから、高田商業高等学校は、思い出づくりの名人と言われています。

このように高田商業高等学校では、この学校でしか体験できないことがたくさんあります。私たちは、魅力あふれる学校で毎日楽しく過ごしています。学校紹介は以上になります。

○森田議員

2番、森田凜です。奈良県の県外就業率改善について質問します。



(大和高田市立高田商業高等学校 森田 凜 議員)

令和4年10月に奈良県総務部知事公室統計分析課から公表された令和2年度国勢調査従業地・通学地集計結果によると、15歳以上の就業者のうち、奈良県の県外就業率27.3%は全国第3位で、全国第1位の埼玉県29.3%、2位の千葉県27.4%に次ぐ高い順位になっています。また、市町村別の県外就業率は、生駒市が51.5%と最も高く、次いで王寺町41.7%、三郷町40.8%と県西部の市町で高い割合になっています。県外就業率の割合が高い都道府県は、多額の資本金を有し、多数の従業員を雇用する大企業がたくさんある大都市に隣接していることが推察されます。確かに都市部では企業数や求人数が多いため、就職や転職の選択肢が豊富です。しかし、県外への就労者の流出は、県にとって、地域の経済、コミュニティに関わる大きな問題です。

県内にも魅力のある企業がたくさんあり、県内出身者だからこそその視点を生かし働くことにより、地域社会の活性化に貢献できるのではないかでしょうか。平成7年と令和2年の県外就業率を比べると、奈良県は5.4ポイント減少しており、県政の様々な取組の成果であると思います。しかし、今なお県外就業率は高く、この状況が大きく改善されない限り、県内経済の活性化、税収の確保、また、若年層の地域への定着といった問題に大きな影響を与え続けることになると思います。

そこで、知事に質問します。県内での雇用創出に向けた取組、魅力的な仕事を見つけるための情

報提供や人材マッチング支援について、どのようなお考えをお持ちでしょうか、お聞かせください。

○山下知事

ご質問ありがとうございました。

ご指摘のとおり、奈良県の県外就業率は全国で3位ということで、奈良県の経済の活性化という点では、今本当に大きな問題があると思っております。県内には中小企業が多く、そういう中小企業の経営者の皆さんには、本当に人手不足に困っています。もっと業務を拡大したいが、人手が足りなくてできない。その理由の一つが、多くの奈良県在住者が大阪府方面で働かれているので、同じ奈良県に住んでいながら、なかなか地元の企業に目を向けてくれず、大阪府内の企業に人手を取られてしまっていることが理由だと思います。

先ほどご指摘のあった生駒市や王寺町、三郷町など奈良県西部の人が、なぜ大阪府内の企業に就職するかというと、そこには幾つか理由があります。もともと大阪府に住んでいた両親が奈良県に転居してきたので、その子どもと一緒に奈良県に住んでいるという家庭も多く、例えば中学校も高校も大阪府内の学校に通い、買物に行くのも専ら大阪府内と、大阪府が生活圏になっていて、奈良県よりむしろ大阪府のほうがなじみがあるというような理由もあるかもしれません、就職先を決める上で一番大きな鍵を握るのが、仕事のやりがいと給料で、仕事のやりがいは、人によってそれぞれ違いますが、給料は、誰しもたくさんもらえる企業を選びたくなるもので、あえて安い給料のところで働きたいという人はあまりいません。そうすると、給料の点が一番重要なのですが、県内は、先ほど言いましたように中小企業が多いので、そんなに高い給料は出せません。一方で、大阪府には大企業が多く、給料が高いということがやはり県外就職を選んでしまう大きな理由だと思うのです。

この問題への対応策としては、一つは、大阪府にあるような大企業を奈良県に誘致するということが考えられます。本社を移転してもらうのはな

かなか難しいと思いますが、大企業の、例えばある事業部門を奈良県に移すとか、工場を移すということは可能かもしれませんので、そうしたことに向けて、県では、新たに工業団地を整備したり、あるいは、奈良県で立地を考えている企業に対して補助金を出したり、あるいは、私が東京都や大阪府に行って、奈良県で事業をしないかというようなPRをしたりしています。それともう一つは、奈良県にある中小企業の業務をもっと拡大してもらい、奈良県内の中小企業が大きくなつて、高い給料を払えるようになれば、わざわざ大阪府に行かなくても、奈良県内で給与面で十分魅力のある企業に勤めることができます。現在、様々な施策で、奈良県の既存の企業の支援に取り組んでいます。

先進的な取り組みを紹介したり、補助金を出したりと、たくさんの施策を行っているので、今ここで全部を紹介する時間はありませんが、例えば会社の業務を効率化したいので、IT化・デジタル化したいとき、どうすればいいのか分からぬ。あるいは、もっと働きやすい職場にするために、様々な働き方を労働者に提供したいので、テレワークやフレックスタイム制などを導入したいが、どうすればいいのかよく分からないというような県内企業もあると思うので、そうしたところにデジタルやITの専門家を派遣したり、あるいは、そういう企業の労務や働き方の問題に詳しい社会保険労務士を派遣したりなど、そういう専門家派遣によって、企業の業務改善の取組をお手伝いし、県内の中小企業をバックアップすることで、たくさん給与を払えるようになってもらう、というようなことに取り組んでいます。

また、県内の高校生や大学生、あるいは、既に働いている方に、奈良県にもいい会社があるということを知ってもらうことが県内就業につながりますので、現在、高校生の企業訪問バスツアーというのをやっていまして、高校生に県内の企業をバスで訪問してもらって、その県内の企業がどんな仕事しているかを知ってもらうというようなことや、県内の大学生に一定期間、大学生の間にイ

ンターンシップで県内の企業に行ってもらうというようなこともやっています。あるいは、大学などを卒業し就職した後、正社員を辞めたけれども、もう一回働きたいという人に、県内の企業でインターンシップをしてもらうため、例えば1、2か月間のインターンシップの期間の給料を、県が半分、労働者を受け入れる企業が半分といった形で、県がインターンシップの期間の賃金を補助するというようなことを行っています。

今の話をまとめると、大阪府や東京都内の大企業に匹敵するような大企業を誘致すること、県内の中小企業をバックアップして、どんどん企業に成長してもらい、たくさん給料を払えたり、労働条件をよくできるだけの、企業としての実力をつけてもらうこと、それから県内の高校生や大学生、それから、学校を卒業した人と企業とのマッチングの支援と、多面的な取組を行っているということです。すぐには効果が現れないかもしれません、先ほどの質問の中で調べられたデータがありましたように、少しずつ効果は上がっていますので、これからもそういう取組を続けて、県内就業率を高めていきたいと思っております。ご質問ありがとうございました。

○西堀高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、県立香芝高等学校、5番、吉田詩葉議員、6番、森郁颯議員に発言を許します。

○吉田議員

5番、吉田詩葉です。県立香芝高等学校の紹介をします。

香芝高校は、「元気いっぱい 一歩前へ」をスローガンに掲げる、魅力と活力にあふれた学校です。私たちは、夢に挑戦、明るく、素直で、チャレンジ精神を合い言葉に、勉強や部活動に励んでいます。



(県立香芝高等学校 吉田 詩葉 議員)

本校は、普通科の中に表現探究コースという香芝高校独自のコースを設けています。今回は、表現探究コースに重点を置いて紹介します。

表現探究コースでは、通常の授業科目に加えて、これから将来に役立つ情報活用能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の3つの能力を身につけられるよう学習に励んでいます。具体的には、1年生で新聞記事作成や中学校の恩師へのインタビュー、2年生でラジオ番組作成、香芝市のシティープロモーション、3年生で個人探求活動に意欲的に取り組んでいます。特に、大和高田市にあるコミュニティラジオ局のFMヤマトでは、「香芝高校8時間目ラジオd eひょうたん」という番組を担当させていただき、香芝高校の魅力や日々の取組について、2、3年生の代表生徒がパーソナリティーとなって生放送しています。

このようなメディアを活用した取組など、貴重な経験を通して、これから社会で役立つ能力を身につけられるよう、日々様々なことに取り組んでいます。学校紹介は以上です。

○森議員

6番、森郁颯です。学校教育環境について質問します。



(県立香芝高等学校 森 郁颯 議員)

私は、学校で授業を受けているときに、教科書やノート、BYOD端末を机の上に置くと重なってしまい、机が狭いと感じています。BYOD端末とは、教育活動において活用することを目的に、学校へ持ち込む個人が所有するキーボード付パソコン、もしくはタブレットのことです。そこで、私のように思っている生徒がどれだけいるのか疑問に思い、本校生徒625人にアンケートを取ってみました。議員の皆さんのお手元にございます資料をご覧ください。

現在使用している机の大きさについてどのように感じていますかという質問に対して、70.7%の人が小さいと感じていることが分かります。BYOD端末が導入されてから机から物がよく落ちるようになったと感じますかという質問に対して、71%の人が物がよく落ちるようになったと感じている結果が出ています。また、高校入学後、机からBYOD端末を落とした経験はありますかという質問に対して、38.2%の人が落とした経験がありました。傷ついたBYOD端末を持っている人が多いこともうなづけます。次に、BYOD端末を授業でよく使いますかという質問に対して、73.3%の人が授業でよく使っていることが分かりました。実際、私も授業でBYOD端末を使用し、今回のアンケートや部活動などでも使用しています。机が大きくなったら何を置きたいかという質問に対して、教科書とBYOD端末、両方をちゃんと置けるようにしたい、教科書を重ねることなく置きたい、BYOD端末とノートと

教科書を置けるようにしたいといった意見が見られました。

私は、この結果から、机が大きくなることによって、生徒の学習環境がよくなると思います。机が広くなることにより、教科書やノート、BYOD端末を無理なく置くことができ、物が机から落ちることも少なくなると思います。ましてや、BYOD端末は高価なので、故障した場合の修理も高額です。さらに、学習環境がよくなることは、生徒の学習意欲の向上にもつながります。

実際にこの課題を解決しようと動いた市が奈良県にあります。それが私の地元でもある葛城市です。葛城市では、市内の中学校2校が、天板拡張くんという製品を用いています。令和6年3月1日の葛城市学校教育課の報道資料にあるように、実際に教育環境の改善に成功しています。

そこで、教育長に質問します。机を大きくすることは、生徒の学習意欲の向上につながりますが、このことについてどのようなお考えをお持ちでしょうか、お聞かせください。

○大石教育長

6番、森郁颯議員から私には、学校教育環境についてご質問いただきました。



県立学校における快適な学習環境の提供は、大変重要であり、設置者として、県の責務であると認識をしております。

急速に情報化が進展する社会の変化に対応するため、県立高等学校では、GIGAスクール構想の下、令和4年度入学生からBYODによる1人

1台端末の活用及び電子黒板の導入等により、学習環境の整備、改善を進めているところです。

ご指摘のとおり、現在の学習環境に即して、机の大きさを適度に確保することで、学習効率や学習意欲の向上につながる面もあると考えます。一方、机の物理的拡張以外にも、授業の改善によってBYOD端末等の活用を通じたより効果的な学びを促進することにより、学習効果や学習意欲の向上を図ることも可能であろうと考えております。

奈良県といたしましては、いただいたご意見を踏まえまして、先進事例も参考にしながら、引き続き学習環境の改善に取り組んでまいりたいと考えております。ご質問ありがとうございました。

○西堀高校生議長

次に、県立国際高等学校、9番、北山陽介議員、10番、大谷優月議員に発言を許します。

○北山議員

9番、北山陽介です。県立国際高等学校の紹介をします。



(県立国際高等学校 北山 陽介 議員)

国際高校は、2020年に開校された、眞の国際人を育成する学校です。2023年には国際中学校も開校され、今年度、ようやく中学1年生から高校3年生までの6学年がそろいました。2024年12月に、国際バカロレアワールドスクールに、2025年4月に、ユネスコスクールに認定され、世界に通じる視野や価値観を大切にしています。

文系、理系に加え、海外大学進学を目指すコースがある国際高校には、世界で起きている問題を自分事として捉え、自分たちに何ができるかを考えるグローバル探究、中国語、韓国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語の5言語から選択して学べる世界の言語という授業があり、国際的な教養を深めることができます。英語の授業では、英検準1級レベルの英語力を目指し、実践的な力を伸ばすためのカリキュラムが設定されています。また、今年度は、球技大会の企画、運営を生徒が行うなど、生徒主体の活動が盛んです。学校紹介は以上です。

○大谷議員

10番、大谷優月です。SNSを利用した奈良県の若者向け観光PRについて質問します。



(県立国際高等学校 大谷 優月 議員)

奈良県の観光客数の現状について、奈良県観光データポータルサイト、みるならによると、2017年から2023年までに奈良県に訪れた観光客で、アンケートに回答した1万6,712人のうち、10代から30代の若年層の観光者数が3,934人となっており、そもそも人口比が異なるので、単純には比較できないものの、1万2,778人の40代以上と比べて少ないことが読み取れます。

また、公益財団法人日本交通公社によると、1990年代半ばから2010年代前半に生まれたZ世代の男性37.2%、女性47.8%が国内旅行の行き先を決める際にSNSやブログ、動画

投稿サイトを情報収集の手段として利用しています。

そこで、奈良県の観光地の情報発信について調べてみると、奈良県観光力創造課が運営している奈良県観光プロモーションというインスタグラムのアカウントがありました。拝見したところ、奈良公園周辺など、メジャーな観光地の写真は多く載せられていきましたが、高校生の目線としては物足りなく感じました。長崎県公式ながおし、長崎グルメ・絶景のインスタグラムは、写真と文字の情報がバランスよく掲載されており、若者が好みそうなグルメの情報などが地域ごとにハイライトとしてまとめられているので、分かりやすく、行き先の参考になると感じました。また、地域ブランドや地場産品の開発、販売、PRなどの地域おこし支援を奈良県内で行っている地域おこし協力隊がSNSの運営に携わると、主要な観光地だけでなく、奈良県の全ての地域の魅力をより詳しく発信することができると思います。このように、SNSを利用した情報発信方法を工夫することにより、若者の観光客の増加が期待できます。

そこで、観光局長に質問します。今後、SNSを利用した若者向け観光PRについて、どのような取組を考えていますか、お聞かせください。

○山中観光局長

10番、大谷優月議員から私に対しましては、SNSを利用した奈良県の若者向け観光PRについてのご質問がございましたので、お答えいたします。



観光庁の調査によりますと、10年前と比較しまして、若年層の観光消費額は増加傾向にあると分析しております。本県の課題でもあります観光消費額を伸ばすためには、やはり若者層の誘客というのは大変重要であると認識しています。

若者層への観光情報の発信につきましては、本県では、SNSを積極的に活用しております。具体的には、大谷議員にご覧いただきましたインスタグラムに加えまして、ティックトックも活用しております、それぞれの強みを生かした情報発信に取り組んでいるところです。

まず、インスタグラムですが、こちらは、幅広い年齢層の方が利用されていることもありますし、また、写真による視覚的訴求効果が大変高く、ブランディングに対して非常に効果があります。このことから、県では、歴史や文化などに加え、桜や紅葉、季節の花々などの自然風景やイベント情報等の発信に活用しております。

一方、ティックトックですが、こちらは、若者層を中心に拡散力とエンタメ性に対して非常に強みを持っていますので、こちらの特性を生かし、短期間で話題をつくることを心がけています。このことから、注目を集めたい県内スポットや食べ物、アクティビティーを短尺動画にすることにより、新たな魅力の創出のための情報発信に活用しているところです。

本県のSNSの運用状況ですが、現在、フォロワー数が、インスタグラムで1万1,000人、ティックトックで1万4,000人となっています。インスタグラムの閲覧数は、過去90日の閲覧数が約13万回で、ティックトックについては、投稿開始から2年半になりますが、現在のところ、総再生回数が900万回を超えております。この回数については、ティックトック社が主催するコンテストにおきまして、公的機関を対象としたアワードを2年連続で受賞しているなど、奈良県は情報発信の手法について評価していただいているものと考えております。

大谷議員ご指摘の地域からの情報発信につきましては、今後ますます重要なってくるものと考えております。

えております。県としましては、地域が手がけるコンテンツ制作への支援や、効果的なSNSの発信を推進することにより、本県の魅力があらゆる年齢層に届くように取り組んでまいりたいと考えています。ご質問ありがとうございました。

○西堀高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、県立高田高等学校、13番、宮本紫桜議員、14番、吉川怜歩議員に発言を許します。

○宮本議員

13番、宮本紫桜です。県立高田高等学校の紹介をします。



(県立高田高等学校 宮本 紫桜 議員)

高田高校は、奈良県北西部に位置し、葛城山を見上げることができる景色がきれいな場所にあります。1学年約360人、9クラス、全校生徒が1,000人を超える大規模校です。文武両道、生徒が頑張ることが恥ずかしくない、自由に様々なことにチャレンジできる環境をスローガンに、日々の学校生活に取り組んでいます。

本校の教育の特徴は、各学年に探求の授業があることです。1年次は、調べるだけではなく、仮説を立て、検証するという探求活動の基礎を学びます。2年次では、各テーマ別にゼミをつくり、それぞれのテーマを設定し、探求活動に取り組みます。3年次は、魅力を感じる大学の特徴を調べ、みずから学びを進路実現に結びつけるキャリア

探求に取り組んでいます。

学校行事にも力を入れており、文化祭では、模擬店や舞台発表、体育大会では、リレーなどの種目を通じて、団結力や協同力を高めています。また、修学旅行では、研修や観光を通じて、社会性や協調性を養います。ほかにも、校外学習や芸術鑑賞会なども行われており、多彩な経験が生徒の成長を促します。

令和3年に創立100周年を迎える、昨年より進学教育重点校に指定された本校は、これからもますます発展していきます。学校紹介は以上です。

○吉川議員

14番、吉川怜歩です。奈良県南部地域の観光政策について質問します。



(県立高田高等学校 吉川 怜歩 議員)

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられました。様々な規制が緩和され、インバウンドが増加したことに伴い、奈良県への観光客数も近年増えてきています。実際、令和5年の奈良県への観光客数は3,991万人で、令和4年の3,266万人より725万人増加しています。新型コロナウイルス感染症が流行する前の令和元年の奈良県への観光客数4,502万人にはまだ及びませんが、徐々に回復し、当時の水準に戻りつつあります。

このように、多くの観光客が訪れる奈良県ですが、課題があります。それは、関西圏の来訪者に奈良県内での宿泊を伴わない観光客が多いことです。その理由は、来訪者の行き先が交通アクセス

のよい奈良市周辺に偏っていることだと私は考えます。特に令和5年の奈良県の宿泊者数が全国44位から分かるように、宿泊者数を増やすための工夫が必要です。

そこで、私は、この課題を解決するために、現在訪れる観光客が少ない奈良県南部エリアを活性化することが必要だと考えます。奈良県南部地域は、豊かな自然、世界遺産の紀伊山地の霊場と参詣道、温泉、桜の名所の吉野山など、多くの魅力的な観光資源を有していますが、県外の人たちにはまだまだ知名度が低いと思います。たくさんの人が集まる大阪・関西万博などのイベントで奈良県南部地域の魅力をPRしていますが、あらゆる機会を捉えて、さらによさを知ってもらう必要があります。

そこで、観光局長に質問です。奈良県南部地域の観光政策について、今後どのような点に力を入れていくお考えでしょうか、お聞かせください。

○山中観光局長

14番、吉川怜歩議員から私に対しましては、南部地域の観光政策についての質問がありましたので、お答えします。

南部地域への来訪を促すことは、県全体の観光産業の発展や地域振興にとって大変重要であると県としても考えております。しかし、南部地域には、例えばホテルや旅館といった宿泊施設の不足、担い手や後継者などの人材の不足、さらには、集客施設の多言語対応やキャッシュレス対応といった受入れ環境の整備が進んでないというような課題が山積しています。

そのため、県では、これらの地域課題の解消に向けた地域の主体的な取組に対しまして、補助金等による支援を行っているところです。あわせて、南部地域の魅力を知っていただく取組としまして、昨年度は、世界遺産、紀伊山地の霊場と参詣道の登録20周年記念でしたので、これに合わせまして、東京都などの首都圏や愛知県など東海エリアでプロモーションを行うとともに、若年層に向けてインフルエンサーを活用したSNSによる情報

発信を行うなど、認知度向上に取り組んだところです。また、南部地域での周遊については、交通アクセスに大変課題がありますので、県では、レンタカーで県南部地域の見どころを回っていただけるお得な周遊パスである楽遊パスの商品の造成を行っています。また、昨年6月には、民間の方々の専門的な知見を生かすために、観光産業の発展と地域の活性化を目的として、奈良県観光戦略本部を設置しました。その下に、中南和の部会を設け、地域の課題や特性を踏まえた議論を深めているところです。

引き続き地域の観光団体や民間事業者と連携し、様々なアイデアを出し合いながら、南部地域の魅力を高める取組を進めてまいりたいと考えております。ご質問ありがとうございました。

○西堀高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、育英西高等学校、17番、平田奈都子議員、18番、小林凜議員に発言を許します。

○平田議員

17番、平田奈都子です。育英西高等学校の紹介をします。



(育英西高等学校 平田 奈都子 議員)

私たちの学校は、創立42年目を迎える女子の中高一貫校です。奈良市西部の丘陵地に位置し、安全で自然豊かな環境に恵まれています。母体である奈良育英学園の教育理念を基盤とする本校は、

豊かな教養と純真な人間愛を持って社会に貢献できる女性の育成を目指しています。中学校は国際バカロレアMYP認定校、高等学校は文部科学省の地域協働事業グローバル型推進校に指定されており、国際的な視野を育む教育に力を入れています。

高等学校には、立命館コース、特設連携コース、特設文理コースと呼ばれる3つのコースが設置されており、私たちは特設文理コースに所属しています。このコースでは、近隣の国公立大学との共同プログラムを通して、グローバル社会とのつながりを踏まえた探求課題に取り組むことを目指しています。また、国際交流やグローバル後援会、大学教授による出前講義を通じて、知的好奇心を育み、国際的に挑戦する意思を持った人材の育成を図っています。実際に、台湾の女子中学校との交流会や大学教授の講義に意欲的に取り組み、みずから進路に関する探求活動を行うなど、主体的な学びが日々実践されています。

このように、育英西高校は、生徒一人ひとりがみずからの未来を切り開き、社会で活躍できる自立した女性へと成長するための学びの場となっています。学校紹介は以上です。

○小林議員

18番、小林凜です。奈良県の道路インフラ整備について質問します。



(育英西高等学校 小林 凜 議員)

私たちの学校は、最寄り駅から離れた奈良市西部の丘陵地に位置しており、徒歩、バス、自転車、

自動車での送迎など、複数の通学手段があります。中でも自転車通学の生徒にとって、通学路にある坂道の傾斜やカーブ、さらに路面の凹凸は非常に危険で、実際に自転車が傾いて転倒し、かごの荷物が落ちてしまうといった事故も発生しています。そのため、日常的に不安を抱えながら自転車通学をしている生徒が多いです。

また、2023年の道路統計年報によると、奈良県の一般国道と都道府県道の道路整備率は34.2%で、全国最下位という厳しい現状にあります。南北の移動に使える主要道路は、国道23号、168号、京奈和自動車道などに限られており、交通集中による慢性的な渋滞が発生しています。そのため、法隆寺、飛鳥、吉野といった観光地を自動車、観光バスで移動するには時間がかかり、交通の利便性の向上を図る必要があると思います。

世界中の都市は、交通管理の効率を高めるソリューションとして、現在の交通状況に基づいて信号のタイミングを調節できるスマート信号機に注目しています。このシステムでは、渋滞を検出すると、渋滞ルート上の車両の移動を優先する信号のタイミングに調整し、渋滞を緩和することができます。奈良県にスマート信号機を導入することにより、県内の慢性的な渋滞が改善されるのではないでしょうか。また、異常走行車両の特定による事故の防止、緊急車両の優先通行の確保、環境への配慮、イベント時における対応力の強化など、先端技術には数多くの利点があります。

そこで、知事に質問します。奈良県の道路インフラ整備について、今後どのような方針で取り組まれるのでしょうか、お聞かせください。

○山下知事

奈良県の道路整備についてご質問ありがとうございます。

現在、奈良県では、ならの道リフレッシュプロジェクトという、令和6年度から令和10年度までの5か年の計画を進めています。これはどんな計画かというと、先ほど自転車通学が本当に危険だという話がありましたが、道路の凸凹、穴ぼこ、

ひび割れ、こうしたものが長い間、修繕されずに放っておかれていたり、白線が車の通行などで薄くなってしまっても、なかなか塗り直されない、あるいは、道路の車道や歩道に草が伸び放題で、車や自転車を運転するときに快適に運転できなかったり、歩行者の歩行の妨げになるというような問題がありますので、こういう問題を5年間で集中的に改善していこうという取組で、通常の毎年行う道路維持管理の予算とは別枠で、年間16億円の予算を確保し、5年間で80億円かけて、奈良県の道を快適にしようとしています。これをならの道リフレッシュプロジェクトと銘打って、奈良県内にある7つの土木事務所が一丸となって取り組んでいます。なお既存の道路についてはこのような取組を進めていますが、このならの道リフレッシュプロジェクト以外にも、道路を拡幅するなどには普段から取り組んでいます。

またそれとは別に、先ほどご指摘のあった全国最下位の道路整備率を何とかしなければならないと考えておりますし、そのためには、やはり幹線道路の整備を急ぐ必要があると思っております。ご指摘のように、奈良県は、どちらかというと東西の道路軸は充実していますが、南北の道路があまり充実していないという問題があります。特に南北の自動車専用道路は京奈和自動車道しかありませんが、これが今、京都の木津インターチェンジから郡山下ツ道ジャンクションまでの間と、橿原北インターチェンジから橿原高田インターチェンジの間でつながっておりません。そのため、皆さんも体験したことがあると思いますが、その橿原北インターチェンジと橿原高田インターチェンジの間は、自動車専用道から一般道に下りた瞬間、一般道の車と自動車専用道の車が合流しますので、いきなり渋滞して信号待ちになる。同じ理由で、郡山下ツ道ジャンクションから奈良市内の間の国道24号も日常的に渋滞しています。これを解消するためには、京奈和自動車道の早期全線開通しかありませんが、これは、奈良県ではなく、国が整備している道路なのです。工事自体はNEXCO西日本が行っていますが、国が造るべき道路な

ので、今、一生懸命国に要望活動を行っているところです。それ以外にも、斑鳩バイパスや国道168号、169号、北和地域でいえば、国道163号など、主要な国道については、国で管理している箇所がありますので、国に対して併せて要望活動をしているところです。

それから、より身近でできる渋滞改善の取組として、国や県などで奈良県渋滞対策協議会を設置しております、渋滞している交差点について、交通量調査を行った上で、その結果に基づいて交差点の改良や信号表示の時間調整などを行っております。

小林議員からご指摘のあったスマート信号機については、海外では既に実用化されていると聞いております。日本国内においても、AIを活用した信号制御の実証実験が既に実施されていると聞いていますので、今後、こうした先端技術にも注目して、取り入れられるものは取り入れていきたいと考えております。

引き続き、今申し上げた様々な取組を同時に実行することで、道路を利用する県民の皆さんのが快適に、そして、安全に道路を利用できるように努めたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願いします。

○西堀高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、県立郡山高等学校、21番、遠藤瑚奈議員、22番、井上諒亮議員に発言を許します。

○遠藤議員

21番、遠藤瑚奈です。県立郡山高等学校の紹介をします。

郡山高校は、日本の桜名所百選に選ばれた郡山城址の二の丸跡に校舎があり、今年で創立132年を迎える伝統校です。多くの方から、郡高と呼ばれています。「誠実・剛毅・雄大」の校訓に倣い、創立当時より文武両道を掲げています。



(県立郡山高等学校 遠藤 瑞奈 議員)

本校の特徴として、生徒の自主性が高いことが上げられます。特に学校行事では、生徒が主体的にイベントを企画し、運営するため、自分で考え、工夫する力を養うことができます。先生に指示をされてから行動するのではなく、生徒みずから動くことができる力を郡山高校生は身につけています。

また、国際理解教育にも力を入れており、3月には、希望者を対象として、海外リーダー育成研修を実施しています。この研修では、約10日間、オーストラリアに行き、現地でホームステイを体験します。また、現地の学校に3日間通い、学生と一緒に授業を受け、異文化共生について学びます。今日、この場に来ている4人も海外リーダー育成研修に参加したメンバーです。私たちは、この研修で、集団の先頭に立ち、仲間と共に目標達成に向けて協力する力を身につけました。また、母語が異なっていても、お互いに歩み寄ろうとする気持ちがあれば、人ととのつながりが増えていくということも学びました。海外で学んだ知識や経験を活用し、学校だけでなく、奈良県をより過ごしやすい地域にしようと考えています。学校紹介は以上です。

○井上議員

22番、井上諒亮です。教育活動におけるAIの活用について質問します。

近年、AIの発達が著しく、様々な分野で研究開発が進んでおり、これらの技術は、様々な業界で実用化されています。

奈良県内の市町村でも生成AIツールを導入する動きが出始めています。奈良市は、2024年

3月より市民からの問合せや職員からの内部の問合せにAIが自動で対応することで、職員の業務負担軽減や市民サービスを向上させることを目的に、奈良市役所内の案内役として、アバター接客さくらさん、問合せ対応として、社内問い合わせさくらさんの2つのサービスを導入しました。AIを活用することで、業務効率化、人手不足の解消などのメリットを得ることができます。



(県立郡山高等学校 井上 諒亮 議員)

AIの導入が積極的に進む中、2024年12月に文部科学省は、初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）を公表し、学校現場でのAI活用の促進を図っています。学校現場におけるAI導入は、個別最適化、教師の負担軽減、教育の質の向上といったメリットが期待されています。しかし、著作権侵害、環境負荷など、様々な懸念が残っています。生成AIは、ウェブスクレイピングという技術を用いてデータを収集していますが、その際、ウェブ上の著作物が無断で使用されています。また、生成AIのデータセンターは、大量の冷却水と電力を必要とし、その維持・拡大のために大きな環境負荷がかかります。さらに、生成AIモデルの性質上、誤った情報を出力してしまうハルシネーションを防ぐことは極めて難しく、データに潜む偏見や差別等のバイアスをそのまま再生成してしまうリスクも指摘されています。教育においても、生成AIに頼り過ぎることで、生徒がみずから学び、考える力を損なうおそれがあります。

以上のことを踏まえて、学校現場でAIをうまく

く活用することができれば、生徒個々が抱える学力や学校生活の不安の解消につながる一方で、それに伴う課題に向き合いながら活用する必要があります。

そこで、教育長に質問です。奈良県として、教育活動におけるA Iの活用について、どのようにお考えでしょうか、お聞かせください。

○大石教育長

22番、井上諒亮議員から、私には、教育活動におけるA Iの活用についてご質問をいただきました。

利便性が高く、私たちの生活にますます身近なものとなってきた生成A Iを、学習や日常生活で活用できるようにしていくことは、これからの中学校教育に求められる大切な内容であると考えております。

生成A Iは、ウェブ上の膨大な情報を基に、短時間で文章や画像、音楽などを生成したり、情報を分析したりすることができます。しかし、生成A Iは、事実に基づかないもつともらしいそれを生成する問題点等もあります。そのため、生成A Iを有効に用いるには、その仕組みや特徴を理解するなど、一定のA Iリテラシーを身につけることが必要であると考えております。

県では、今年度、英語教育におきまして、県立高校1校、市町村立中学校2校をモデル校として、A Iを活用して話すこと、聞くことの学習機会を増やすことを目的とした取組を進めているところです。特に話すことについては、実際に人と英語で話すことが苦手な人でも、まず、生成A Iを活用して練習する機会を持つことで、自信を持って英語を話せるようになったり、積極的に外国人と英語でコミュニケーションを取ろうという意欲が高まったりする効果があると考えております。

また、探求活動等では、発表原稿や報告書を作成する際、多くの資料や論文を読み込む必要がありますが、生成A Iの要約機能を使うことで、重要なポイントを短時間で把握することができ、自分の考えを整理して表現することに多くの時間

を費やすことができます。さらに、作成した文章や画像等を生成A Iに添削させたり、あるいは、推敲したりすることもできると考えています。

これは一例ですけれども、生成A Iを活用することで、高校生の皆さんのがんばりの可能性は広がると思っておりまして、様々な場面で活用できるよう、今後とも検討していきたいと考えております。ご質問ありがとうございました。

○西堀高校生議長

再質問はありますか。

それでは、しばらく休憩します。

午後2時19分 休憩

午後2時30分 再開

○坂下高校生議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、奈良市立一条高等学校、25番、林睦貴議員、26番、嵯峨悠生議員に発言を許します。



(県立郡山高等学校 坂下 心菜 議員)

○林議員

25番、林睦貴です。奈良市立一条高等学校の紹介をします。



(奈良市立一条高等学校 林 睦貴 議員)

奈良市内に位置する一条高校は、世界遺産、古都奈良の文化財の構成資産の一つでもある平城宮跡の隣で、新たな校舎や仲間と共に、75年目の航海に臨んでいます。

本校の特徴の一つは、副校章の一条丸に代表されるフロンティア・スピリット、開拓者魂です。この信念の下に、生徒は、多くの自由を担保されています。具体的には、校内での携帯電話の使用の自由やジェンダーに縛られない制服の選択の自由等などです。そして、

私たち生徒会役員は、多方面に及ぶ積極的な活動に取り組んでいます。

また、本校のもう一つの特徴は、附属中学校が併設されているということです。附属中学校は、令和4年度に設立され、昨年度に初めて全6学年がそろいました。本校では、中学生、高校生という枠に縛られず、文化祭や体育祭などでは、お互いが協力することにより、それぞれによい影響を与えています。

さらに、本校では、3年間を通じた探求活動の実践、英語教育を筆頭としたアクティブラーニングの推進、外国語科の募集停止に伴う学部の再編などを推し進め、歴史を大切にしつつ、変革を恐れず、前へと進んでいきます。私たち生徒会役員もこの考えを胸に刻み、日々、多方面にわたる活動をしています。学校紹介は以上となります。

○嵯峨議員

26番、嵯峨悠生です。奈良県が目指す世界平和へのアプローチについて質問します。



(奈良市立一条高等学校 嵯峨 悠生 議員)

奈良県の歴史を振り返ると、東西の多彩な文化が交わるシルクロードの終着点である平城京は、国際色豊かな土地として発展し、東大寺や春日大社に代表される仏教と神道の中心地となりました。今日では、世界中から多くの観光客が訪れる人気の観光地です。このような歴史の中で、異なる意見や視点を持った人々との共生や、和をもって貴しとしますという意識を大切にし、世界と交流を続けてきた奈良県は、全国的にも、また、世界的にも類を見ない地域であると感じます。

現在、世界では、これまで以上に多極化が進み、各地で民族や国家間の対立が生じ、国際社会として団結して問題解決に取り組むことが難しい状況にあります。このような危機的な時代だからこそ、文化的、歴史的な価値観を有する奈良県が、その資質を生かして、世界平和という人類共通の高尚な目標の達成に向けて貢献する必要があるのではないかでしょうか。

奈良県が世界平和に貢献するためには、私たち高校生をはじめ、多様な人々や機関が官民一体となって取り組むことのできる取組が4点あると考えます。1点目は、学校教育で地域資源を活用した多文化教育を展開すること、2点目は、県内の市町村、具体的には奈良市や桜井市のように、県として非核化宣言を表明すること、3点目は、国際共生や軍縮をテーマとしたフォーラムや交流イベントを開催すること、4点目は、仏教や神道が体現してきた他者との共生を観光体験を通じて発信することです。

世界平和への貢献は、直接的に誰も取り残さない世界の形成に寄与することに限らず、県民一人ひとりが平和の担い手としての意識を持ち、地域への愛着や連帯感を育むこと、また、国内外からの観光客との相互理解や包摂性を高めることにより達成することができます。これらは、住みよく魅力ある奈良県づくりの実現に直結し、最終的には奈良県が世界への希望の光となると私は信じています。

そこで、知事に質問します。奈良県として、どのようなアプローチを通じて世界平和に貢献したいとお考えでしょうか、お聞かせください。

○山下知事

世界平和の実現に向けて、奈良県としてどんなことができるのかという、大変広い大きな質問をいただいたと思います。

今、世界を見渡してみましても、ロシアとウクライナの戦争も3年以上経過しておりますし、イスラエルとパレスチナの戦争もなかなか終わる気配がございません。そうした中で、多くの高校生

がそういった平和の問題に関心を持たれるのは、非常に自然なことかと思います。また、今年は、太平洋戦争が終結して80年という節目の年で、8月上旬には、マスメディア等の報道を通じて、平和の問題について考える機会も多かったのではないかと思います。

平和の定義を戦争のない状態と捉えるとすれば、基本的に、その職責を担っているのは国だと思っております。外交努力によって平和を実現する、これは外務省がやっていることです。それから、安全保障体制を構築すること、これは防衛省が担っていることでして、それを内閣が統括するという仕組みで、我が国は外国との関係に対応しています。では、地方公共団体は何もすることはないのかというと、そうではありません。

地方公共団体が果たす役割を一言で言うとするならば、国と国の住民同士の交流を通じた相互理解の促進ということだろうと思います。太平洋戦争が終結して80年と申しましたが、日本とアメリカの国力というのは、今でも人口や資源の有無、それから、工業力、軍事力という点で大きな開きがあるわけでして、戦争が始まった1941年当時は、両国の国力差はもっと大きかったわけです。今から考えれば、どうして勝てる見込みの乏しい戦争をしたのだろうと誰しも疑問に思うわけですが、当時、戦争が始まった直後は、真珠湾攻撃の奇襲で日本は勝ち、それから、どんどん東南アジアに進出して勝利を収めて、国民は戦争を支持していたわけです。国民は戦争に勝てると当時は思っていたわけですが、それは、アメリカという国に対する理解が十分ではなかったと思います。相手の国に対する国民の理解が十分にあれば、勝てる見込みのない戦争を始めるという決定には至らないのが普通だと思いますので、そういう意味では、直接的ではないかもしれないですが、相手の国をよく知るということが、長い目で見ると平和につながるという観点から、外国の住民と日本の住民が相互交流して、お互いに理解をするということが重要になってくると私は考えております。

では、具体的に奈良県は何をしているかという

と、奈良県は、韓国、中国、ベトナム、ウズベキスタン、スイスの5か国の地方公共団体と友好提携を締結しています。それらの国々の地方公共団体とは政府レベルでも県レベルでも、様々な交流をしています。韓国の忠清南道とは、奈良県内の高校生が忠清南道の高校生とeスポーツを通じた交流をするため、忠清南道に派遣されたという実績があります。また、友好提携を締結している中国の陝西省とは、奈良県内の大学生が陝西省を訪問し、学生レベルの交流を行っています。ベトナムとは、ホーチミン工科大学の大学生が奈良県の企業でインターンシップを行っています。また、ウズベキスタンとは、サマルカンド州と友好提携を締結しています。今日は附属高校の学生の方もおられます。奈良県立大学とサマルカンド国立外国語大学が昨年、友好提携を締結し、現在サマルカンド国立外国語大学の学生が奈良県立大学でサマースクールを開催しています。サマルカンド国立外国語大学の学生が4名来県しております。また、吉野町にある奈良南高校吉野学舎と同じ敷地に奈良フォレスター・アカデミーという、林業を勉強するための学校があり、社会人になってから入学された方も多いのですが、その学生がスイスにある同様の林業学校へ海外研修に行っております。私もいろいろな友好関係にある国を訪問して、地方公共団体の首長の方々と交流していますが、そういう高校生、大学生レベルでの交流を通じて、相互理解の促進を図っております。

なお韓国の忠清南道とは、今年が日韓国交正常化60周年という節目の年に当たりますので、10月24日に、奈良県内で日韓音楽交流イベントを開催します。また翌10月25日には、日韓文化セミナーを開催し、交流と相互理解を深める取組を行う予定です。10月24日の音楽交流イベントでは、忠清南道にあるK-POP高校の学生と、県内の高校生と一緒に共演をするようなプログラムも今考えています。そういう草の根でこれから我が国と韓国を担う高校生が交流することで、日韓関係の友好的で長期的な発展に繋がればという思いを持っています。このイベントにつ

いては、近々、詳細を発表して、受付も開始します。K-POPアーティストも来ますので、興味のある方はご参加いただければと思っております。

また、今、万博が開催されていますが、奈良県と友好関係にある国のパビリオンに私が訪問して、そのパビリオンの方々との交流も行っているところです。

それから、現在、県内には約2万人の外国人の方が暮らしております。様々な分野で活躍をされています。いろんな工場や高齢者福祉施設、あるいは、コンビニでは皆さんも外国の方がレジを担当されているのをご覧になったことがあるかもしれません。そういう場所で働くことで、県内経済を支える外国の方が今増えております。こうした外国人と奈良県民との相互理解の促進ということも、広い意味では世界平和につながりますので、例えば外国人住民に対する日本語学習の支援や県庁の行政情報の多言語化、あるいは、奈良県庁にはアメリカや韓国、中国から来た国際交流員が県庁の職員として国際交流を担っておりますが、こうした方を学校に派遣して出前授業や、様々な文化講座を開催するなどを今行っています。

このように、主には、友好関係にある他の地方公共団体との交流、そして、県内にいる外国人の支援や、そういう県内の外国人と県民との交流の促進、こうした取組により、草の根の相互交流によって、相互理解の促進に努めています。ご質問ありがとうございました。

○坂下高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、奈良県立大学附属高等学校、28番、山田瑛太議員、29番、谷川愛英議員に発言を許します。

○山田議員

28番、山田瑛太です。奈良県立大学附属高校の紹介をします。

奈良県立大学附属高校は、令和4年4月に開校し、

今年で4年目を迎えました。「自立・挑戦・貢献」の生徒綱領の下、県内で唯一の探究科の単科高校として週3時間の探求活動に取り組んでいます。



(奈良県立大学附属高等学校 山田 瑛太 議員)

この学校の最大の特徴は、生徒が主体となって学校生活をつくり上げているところです。例えば研修旅行では、与えられた条件の中で何をどこで学ぶのかを生徒自身が考え、企画します。また、ノーチャイム制を導入しており、生徒がみずから時間を管理しながら行動することで、自立性を育んでいます。制服制度も本校ならではの特色の一つです。ふだんは標準服、または私服で登校することができ、式典では標準服を着用します。標準服には、スラックスやスカートの選択肢があり、夏にはセーラー服も選べるなど、個々の状況に応じた柔軟な対応が可能です。また、部活動の活動時間は、週3日の2時間、土日いずれか1日3時間と、他校と比べ、比較的短く設定されています。この時間的な余裕を生かし、私たちは学習や探求活動をはじめ、子ども食堂の運営など、地域のボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。

このように、奈良県立大学附属高校は、生徒の主体性と多様性を尊重しながら、地域につながる新しい学びを実践しています。学校紹介は以上です。

○谷川議員

29番、谷川愛英です。日帰り観光客9割の現実を生かす観光戦略を実施できているかについて質問します。

奈良県のホームページにて、観光客の動態を調べみると、令和元年度の観光客数は全国19位、外国

人訪問者数は全国5位と、高順位ですが、観光客全体に占める宿泊者の割合は6.1%にすぎません。また、令和5年度における奈良県の宿泊施設客室数は、全国43位ですが、ホテルの客室稼働率は66%と、客室数が不足しているわけでもありません。これは、県外に宿泊する方が、次の日の移動などを考慮すると、利便性が高いと判断しているからだと私は思います。この状況下では、宿泊者数を増やし、夜間における観光消費額の充実を主軸とした施策を展開しても、費用対効果が高くないのではないかでしょうか。



(奈良県立大学附属高等学校 谷川 愛英 議員)

一方で、宿泊を伴わない、約94%の日帰り観光客について見てみると、令和3年度の観光客1人当たりの観光消費額3,483円は、全国平均の5,581円と大きな開きがあり、その内訳は、安価な飲料や挙観料などで、まだまだ消費を見込めます。また、年間を通じて広範囲に投資するよりも、奈良公園周辺などの主要エリアに集中して行ったほうが効果的だと考えることができます。

よって、観光収入の増加を図るために宿泊者数を増やす施策を行うのではなく、奈良公園周辺の日帰り観光客を対象として、日本らしさや奈良らしさを体験できる有料の文化プログラムや、高付加価値のサービスを充実させるなど、短時間の滞在でも満足度や消費額を高める工夫が必要です。

そこで、観光局長に質問します。奈良県として、奈良公園周辺での体験型観光の推進や観光コンテンツの付加価値向上にどのように取り組んでいるのでしょうか、お聞かせください。

○山中觀光局長

29番、谷川愛英議員から、私に対しましては、日帰り観光客を生かす観光戦略についてのご質問がございましたので、お答えいたします。

谷川議員お述べのとおり、現在、奈良公園周辺には、外国人観光客を含む多くの観光客が訪れております。ただ、お述べのとおり、その大半が日帰り観光客でして、スマートフォンのGPSデータでさらに細かく分析をしますと、15時頃から急激にお帰りになられる方が増えるという傾向が見られておりまして、県としても、この滞在時間の短さが課題と認識しています。

やはり日帰り観光客の方にも、少しでも多く消費をしていただきたいと思っており、このためには、滞在時間を延ばしていただくことが重要であると考えています。このことから、地域の観光団体や民間事業者等と連携しまして、奈良公園周辺の多様で奥深い魅力の発信と体験コンテンツの充実に取り組んでいるところです。

最近は、ほとんどの方がスマートフォンでいろいろと検索されてから奈良県を訪れていますが、本県では、魅力を発信しても見つけていただけないということのないように、AIを活用しております。これは、例えば、奈良県への旅行を検討していただいている方が興味のあるキーワードを入力しますと、AIがその方のニーズに合った観光スポットや飲食店を提案するウェブアプリ「ならいこ」の提供も始めております。また、体験コンテンツも充実が必要と考えておりまして、奈良県全体の観光協会である奈良県ビジターズビューローと連携しまして、伝統行事や社寺の特別拝観などの付加価値の高いコンテンツの造成に取り組んでいるところです。

さらに、奈良公園周辺での滞在時間を延ばしていくために、夕方以降の楽しみ方についても発信に取り組む予定で、例えば、多くのインバウンドの方に訪れていただいております若草山は、新日本三大夜景に認定されるなど、そこから見る夕日や夜景が大変美しく、多くの方々に楽しんでいただいております。また、それ以外にも、同じく東大寺の二月堂から見る夕日も大変すばらしいと高く評価を受けておりまして、奈良県にはこういったすばらしいスポットが数多くあります。

す。

このような歴史文化と自然景観が融合した奈良県ならではの魅力を、特に夕方以降のコンテンツとして発信することで、滞在時間の延長と食事やお土産物といった観光消費につなげていきたいと考えております。ご質問ありがとうございました。

○坂下高校生議長

再質問はありますか。

これをもって県政に対する質問を終わります。